



2008~2009年度
国際ロータリーのテーマ
夢をかたちに
2008~2009年度
RI会長 李東建

Weekly Report

創立：1980年(昭和55年)1月10日
会長：松井 善則
幹事：田口 豊
クラブ広報委員長：平野 好道
例会日：毎週木曜日 PM12:30~
会場：ヒルトン名古屋
会務局：460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3
ヒルトン名古屋910号
TEL：052-211-3303
FAX：052-211-2623
MAIL：2760nagoya@mizuho-rc.jp
URL：http://www.mizuho-rc.jp/

第1413回例会

～環境保全週間～

クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2009年5月28日(木) 雨 第43回

司会：佐藤一郎会場委員
斉唱：「それでこそロータリー」

副会長挨拶

宇佐美貞夫副会長

芸術劇場等のクラシックのコンサートに行った事があると思いますが、演奏者が拍手を浴びて舞台上に登場し、静まったところでコンサートマスターが自分の楽器で厳かに「ラ」の音を響かせると、それに続いて全員が同じ「ラ」の音を響かせます。チューニングと言って全員の音合わせをするのです。チューニングは単に音程を合わせるだけで



なく会場の響きを確認するという目的もあります。演奏者はリハーサルで十分に準備をしますが、お客さんが入った状態では会場の残響が少なくなりますし、又、温度や湿度によっても響きが変化します。演奏前の限られた時間に「ラ」の音を鳴らし、会場内の状態を察知し、それに対応します。又、これから始まるぞという気分を高め、意識を舞台上に集中する効果もあります。

1939年に「ラ」の音の国際基準ができ、440ヘルツに統一されました。以前は国によって「ラ」の音がバラバラでした。日本では、ピアノの調律師等に聞いたところによると、442ヘルツと少し高めの音程に調律されています。イギリスでは厳格に440ヘルツを守っているようですが、ドイツやオーストリアではさらに高めの音程を基準にしています。従って世界各地から集まった演奏家が一緒に演奏しようとするとその微妙なズレを合わせなければなりません。そもそも「ラ」の音が基準になったのは「ラ」の音程の響きを持つ独特の緊張感と明快さにあるようです。最近の研究で、どんな人種でも赤ちゃんの産声が「ラ」の音であることがわかったそうです。人間の生まれたときの音が、演奏会の始まりの音になっている、つまり、人は生まれながら音楽を求めているという事ではないでしょうか。

幹事報告

田口 豊幹事

- ・本日18日よりヒルトン名古屋28階「ウィンドーズ・オン・ザ・ワールド」において第4回分区分運営委員会ならびに地区正副委員長合同親睦会を開催致します。
- ・次週6月4日(木)、卓話者はアテネオリンピック金メダリストの鈴木桂治さんです。例会を15分延長させていただきますのでどうぞご了承ください。
- ・次週6月4日(木)13時50分より9階「ことぶきの間」にて第12回理事会を開催致します。

臨時例会変更のお知らせ

名古屋西			6/18(木)	6/25(木)※
名古屋南		6/10(水)※		
名古屋東			6/15(月)	
名古屋みなと				6/26(金)※
名古屋東南		6/10(水)		6/24(水)
名古屋中			6/15(月)※	
名古屋和合		6/10(水)		
名古屋名東			6/16(火)	
名古屋名北				6/24(水)
名古屋千種			6/16(火)※	
名古屋大須	6/4(木)		6/18(木)	6/25(木)
名古屋名南				6/23(火)※
名古屋名駅				6/24(水)
名古屋昭和		6/8(月)※		
名古屋丸の内	6/4(木)			6/25(木)
名古屋東山				6/25(木)
名古屋葵	6/4(木)※		6/18(木)※	
あま				6/22(月)※
名古屋空港		6/8(月)※		
名古屋清須		6/9(火)※		
尾張中央			6/17(水)	
名古屋城北				6/23(火)※

(注)※は休会・その他理由につきビジター受付はありません。

ニコボックス

岩田修司ニコボックス委員長

- ・卓話をさせていただきます。 **八木沢幹夫さん**
- ・不注意な怪我により入院でホームクラブ欠席が続きました。お見舞いありがとうございました。 **遠山 堯郎さん**
- ・八木沢先生の卓話に期待して **中川啓二郎さん**
- ・出席率アップに努めております。 **内田 久利さん**
- ・八木沢先生の卓話たのしみです。 **宗宮 信賢さん**
- ・目が合いました。 **梅村 昌孝さん**
- ・中川さんの顔を見て! **渡辺喜代彦さん**
- ・5月は結婚記念日です。 **田中 隆義さん**
- ・6月1日に71才の誕生日を迎えます。 **平野哲始郎さん**
- ・5月の誕生祝を兼ねて、木曽駒高原で孫とゴルフプレーを楽しみました。 **高村 博三さん**
- ・5月16日は家内の誕生日でした。きれいなお花をありがとうございました。 **増田 盛英さん**
- ・5月27日は妻の誕生日でした。お花をありがとうございました。 **平野 好道さん**

出席報告

岩田修司出席委員長

会員70名 出席47名 (出席計算人数53名)

出席率78.3%

5月14日は補填により 98.3%

委員会報告

グルメ同好会:田中隆義さん

6月に第50回記念グルメ会を金沢で開催することになりました。そこで、過去に行ったグルメ会の時期と会場をプリントアウトして参りました。平成2年から始まったグルメ会ですが、これを見ていただくと当時のことが思い出されると思います。皆さんぜひご覧下さい。

次年度ロータリー財団委員会:佐藤一郎次年度委員長

本日メールボックスにGESメンバー募集の資料をお配りしました。場所はカナダ・アメリカで、派遣期間は来年4月10日より5月16日までとなっております。その他詳細は資料をご覧ください。締切は7月31日ですので、推薦する方がございましたらご連絡お願い致します。

活動方針提出について:高木 勝次年度幹事

次年度委員長の方に活動方針をお願いしてありますが、まだ提出されていない方が多数みえます。改めて事務局からFAXしますので至急ご提出ください。また、地区協議会ご出席のみならず、お願いしたレポートも早めにご提出いただきますようお願い致します。

2008～2009年度 西名古屋分区

第4回分区運営委員会ならびに地区正副委員長合同親睦会

5月28日(木)18時から近藤雄亮西名古屋分区ガバナー補佐主催によりヒルトン名古屋28F「ウィンドーズ・オン・ザ・ワールド」にて開催。当クラブからは松井善則会長はじめ10名が出席し、地区正副委員長や西名古屋分区ロータリークラブ会長・幹事の方々との更なる親睦を深めました。アトラクションとして田中大貴さんによる華麗なマジックショーが披露され、会場は驚きと興奮に包まれました。



卓話

八木沢幹夫さん

耳鼻咽喉科事情



本日は耳鼻咽喉科事情についてお話しさせていただきます。まず、耳鼻咽喉科がいつ頃からこのような形になったのかと調べてみました。最初に西洋医学が日本に入ってきたのは明治元年でした。その後、多くの人々がドイツに出掛けて医学を学んできましたが、当時ドイツは耳は耳、喉は喉、鼻は鼻というように分かれており、それが1つにまとまり耳鼻咽喉科となったのは1889年です。その後1892年に東京慈恵医学校で、1896年に東京大学医学部で耳鼻咽喉科講義が開始されました。大正11年に健康保険法が公布されましたが、財源の問題などでなかなか施行できず、実際に実施され始めたのは皆さんご存知のとおり昭和36年になってからです。

最近アレルギー性鼻炎が幅をきかせており、3月が杉、4月が檜、そして現在は稲科の植物の花粉症がピークを迎えています。私が医者をはじめた頃はアレルギー性鼻炎の原因はハウスダストが大部分でしたが、それから27年経って杉がはびこるようになりました。以前はアレルギー性鼻炎の原因として杉が占める割合は一割にも満たなかったのですが、今では患者が2500万人以上にまで膨れあがっています。3年前に抗体療法導入の話がありましたが厚生省に蹴られてしまい、今は舌下免疫を開発中です。完成まであと数年といったところですが、舌下免疫とは抗体をすったものを舌の下で舐めながら消化管で吸収するというもので、実際に試験的なことも始まっており、東京や大阪ではすでに治療をされている先生もおられます。保険がきかないので6万円ほどかかりますが、この近辺では三重大学において小学生や中学生といった子どもを対象に行われています。

次に喉頭癌についてですが、この癌は70～80%治すことができます。しかし治り方の問題があり、声が出しにくくなったり声が枯れたり、治癒率が高いものの内容は未だうまくいっていません。現在はその対策に取り組んでいるところです。放射線治療については、日本は被爆国ということで一般の方には少し抵抗があるようですが現在京都大学で更に研究が進められているので、近い将来には抗ガン剤治療よりウエイトが占められるであろうと考えられます。また、慢性中耳炎もまだ微妙なところで、手術をしても聞こえが治らないということもあります。その精度を増すということが課題だと思っております。また、喉頭癌についてはなんとか治癒率が向上してきていますが、最近では咽頭癌が喉頭癌に取って代わってかなり主の病気となっています。症状があまり出ないので見つかりにくくやっかいな病気です。

さて、資料に記載してある約1万人という数字は何かと言いますと、現時点での耳鼻咽喉科医の人数です。日本全国に25万人いる医師の25分の1という割合です。私が医者になった当時は4000人くらいであったと思います。厚生省が最初に掲げていた人口10万人に対する医師数150人には足りているのですが、色々と分化したり研修医の問題があたりなどで手が足りないのが現状です。

次に人工内耳と人工中耳について説明します。人工内耳とは耳の不自由な患者の聴覚を補助する器具です。愛知県では450人、全国的には2万人ほどが手術されていますが、非常に高額であるためそれほど浸透していません。人工中耳とは埋め込み型の補聴器で、日本が誇れる唯一の医療技術と言ってもいいほどのものです。しかしすでに外国に取られてしまっており、福祉国家と言われるスウェーデンやデンマークあたりでは「埋め込み型の補聴器」という名称ではなく「補聴器の代用」というコンセプトで手術をされています。人工中耳においては厚生省も後押ししていたのですが、残念ながら日本ではあまり行われていません。自治体の財政的な問題もあり、なかなか進まないのが現状です。

以上のように、耳鼻咽喉科としての役割はまだまだあるように感じます。これらが少しでも解決できればと思っています。

今週卓話

6月4日(木)

卓話講師:柔道オリンピック金メダリスト 鈴木桂治さん
テーマ:柔道

次週卓話

6月11日(木)

会員卓話:田中隆義さん
テーマ:みずむしを治そう

次々週行事

6月18日(木)

第5回クラブフォーラム(次年度行事予定)